

# 74新破天荒



令和六年度より  
卒業生通信版  
第34号  
(番号だけ引継ぎ)

今号より、新破天荒は学年通信を卒業し、私的に気軽な通信となります。

本筋の学年通信については、翌月以降の予定等をコンパクトにまとめたA4サイズ一枚物での継続が認められました。その分は、今まで通り本校HPに掲載をさせていただきます。

ただ、こちらについては学年通信を卒業したので、本校HPに掲載されることはありません。印刷する用紙についても、別途私的に準備するので、今までは違う品質の用紙であることをご容赦ください。

時代は、「効率化」や「スリム化」が進み、様々な廻り道をする機会が失われているように思います。公的な立場で、それに抗うことはルール違反であり、マナー違反であると考えるので、私的な立場で少しだけ「今までの」継続をさせていただきます。

## 今の無駄には将来の糧もある

できる範囲の中で、74回生の卒業を迎えるまで挑戦をさせてもらえないでしょうか。お願いします。

ただ、この通信は客観性は間違いなく保ちますが、今までとは違って、74回生の応援以上に74回生の現実を伝えさせていただきます。

一、二年生では大きな夢を

三年では自分の力が

生かせる場面での夢を

手に入れさせることが、私たちが今できる「本当の」仕事だと思えます。

いま目指している進路実現は、自分達の人生において大切なステップではありません。今までも伝えて来た通りです。でも、

ゴールではない

「そこに行きたい」

のは何故なのか？

「そこから そこで」

どう進んでいくのか？

「そのために何が」

必要で、武器にするべきか？

目指すものを変えても、

「やることをやらねば」

状況は何も変わりません。

折角目指した目標を、出ている数値だけで安易に変える必要はありません。

変えなければならぬのは  
自分の覚悟  
自分の取り組み

譲らない努力を、し続けることができるのが

## 第一志望校

と呼べるところです。途中経過で悔しい想いを一杯することです。ときには、モノにも当たってしまうかもしれません。

（「人に当たるのは」は良くないな。先生が言うな！という人もいるかもしれませんが(笑)）

立ち止まる、動けなくなる・・・。それも、本気で自分の想いを叶えたいからこそです。

自分を磨く努力は、ほとんどの人がまだ「こすり始めた」ところです。

## 量以上に主体性

基本は、「知りたい」「身につけたい」想いだ、私は多くの卒業生から教えられて、この仕事をここまでやってこれました。

時が変わっても、お互いに歳を重ねても、教え子達が、いま目の前にいる「生徒のために」と「勇気」や「アイデア」をもらえること誇りに思い、皆さんの、時折見せる「妥協の姿」に飲み込まれないように、まずは日々の闘いを続けたいと思います。

## 七月の手定

- 四日(木)まで 一学期期末考査
- 四日(木) 生徒対象救急法
- 六・七日(土・日) 進研記述模試
- 六日(土) 就職公務員模試
- 十日(水) 教育相談
- 十三・十四日(土・日) 進研記述模試未受験者追試

- 十五日(月) 海の日
- 十六日(火) 兵庫県立大学理学部等見学
- 十七日(水) 成績会議
- 十八日(木) 大掃除・廊下階段ワックス掛け
- 十九日(木) 終業式
- 二十三日(火)～八月二日(金) まで 希望補習(前期)
- 二十八日(日) 全統模試(共通テスト用)
- 校外にて 希望者(申込者)

## 八月の手定

- 十一日(日) 山の日
- 十三・十四日(火・水) 学校閉庁日
- 二十・二十一日(火・水) オープンハイスクール
- 二十二日(木)～二十九日(木) 希望補習(後期)
- 九月二日(月) 二学期始業式

詳細は、一学期終業式号で連絡します。

# 文化祭に「寄せ」て

本校に赴任して以来、実は初めての文化祭参加となりました。教師生活としては三十有余年を数えますが、多くの「カルチャーショック」、「生徒の意外な一面」、こんな私を巻き込もうと「奔走、諦めない心」を見せてくれた生徒達……。

自分を余すことなく、74回生の生徒会執行部を中心に、「面向きの二日間」、そこに至るまでの日々を満喫、躍動、発散してくれたでしょうか。

やることを中途半端に引きずれば、切り替えなどできません。その意味で、74回生の皆さんに改めて、今年の文化祭の充実度を聞きたいと思います。

保護者の皆様におかれても、多数の来場、声援、お声掛けを有り難うございました。

顔を上げて、笑顔を作り、日々歩みを進めるには、大きな勇気が必要としています。ただ、今回、多くの(私にとっては)頂いたお言葉は、「ささやかな」と言う言葉ではかたづけられないものでした。

繰り返しになりますが、本当に有り難うございました。

紙面では、生徒達の活動の様子の写真は「黒塗り」になりそうなので、ここには記載を避けます。私の独り言として今後も発信を許して頂けるならば、下に記した

「ご縁があれば」の部分を見てみてください。

祭りの後 これからの爪跡

<https://www.hatenkou-ara.jp>

でご縁があれば

## 今月の……の勧め

一月	「無駄」
五月	「諦めない」
六月	「捨てる」
七月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九月	「テレビ」
十月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一月	「探る」
二月	「自制する」
三月	「勇気を探す」
一年最終	
二	
四月	「悩むこと」
四月 2	「本気でぶつかること」
五月	「この世界の片隅を大切に」
六月	「主体性」
七月	「客観性」
一学期末	「ルーティーン」
九月	「スマホとの向き合い方」
十月	「詩に触れる」
十一月	「破壊する」
十二月	「想いを再生する」
2学期末	「夢を目に触れるようにする」
一月	「アナログ」
二月	「きっかけ」
三月	「一度諦める」
二年最終	「失敗の感情で終わらない」

## 二一年

- 四月 「思うだけじゃ駄目」
- 五月 「目先の失敗に気付く」
- 六月 「いつか報われる」
- 七月 「いつもと違う努力」

これを配布する時期は、期末考査真っ只中です。今までも、恐ろしい集中力で考査時期を過ごし、努力していた人もあるでしょう。

ここでは、自分の目指す進路がより明確になったという前提で、その努力の一步目として、今までは異なる考査準備をしてもらいたいと思います。ただし、次のルールを守ってください。

- ① その日のうちに寝る
- ② 一日の途中で睡眠時間を作らない
- ③ きちんと短期の休憩時間を挟む
- ④ 決めた時間の中で、お家の人と会話をする  
食事でもできる限りともにする
- ⑤ さてスマホ 電源を切っておく

⑤ が全てかもしれませんね。自分を変えたければ、自分にとって一番影響があるものに変化を求めることとです。

あなたたちには、伸びしろが沢山あります。裏を返せばどういふことですか。

「……したい」と言うことは言えても、  
「……した」と報告できたことはどれくらいでしょうか。

「……し続けている」と言える人はどうですか？

気付いたら、本校で過ごす学期のうち、7-9が終わろうとしています。

一年生の自分から、今の自分にメッセージを発信してやりましょう。一年生の時に思い描いていたことと違って、「ここで頑張ろう」としていた自分から、「ここで頑張っている」自分に、勇気を与えてやりましょう。

### 自分に負けない自分

が浮かんでくるはずですよ。

♪ もうすぐ今日が終わる

やり残したことはないかい

一日の終わりに自分に問い続けるには、「うざ過ぎる」かもしれませんが、節目節目に自分に問うてみましょう。そしたら、いつもと「違った」自分に気付くことができると思います。

# 心の声

## 一枚で止めようよと 想ひましたが

♪ カントリーロード この道ずっとゆけば  
あの街に続いている気がする カントリーロード

一人ぼっち恐れずに 生きようと夢みてた  
さみしさ押し込めて 強い自分を守っていい

♪ カントリーロード この道ずっとゆけば  
あの街に続いている気がする カントリーロード

♪ Almost Heaven, West Virginia  
Blue Ridge Mountains, Shenandoah River

Life is old there, older than the trees  
Younger than the mountains,  
growing like a breeze

Country roads, take me home  
To the place I belong

West Virginia, mountain mama  
Take me home, country roads

♪ いま私の願ひ事が叶うならば 翼がほしい  
この背中に鳥のように 白い翼つけてください  
この大空に翼を上げ 飛んでゆきたいよ  
悲しみのない自由な空へ 翼はためかせ  
ゆきたい

時を超え 人を超え でも そこに関わるものは  
変わらない。

皆さんは誰の唄声、誰の姿が思い浮かびますか？  
この唄の原曲も一度耳にしてみてください。

コーラス部の皆さん、素晴らしい唄声を有り難う  
ございました。大切にしたいと思ひます。



文化祭でコーラス部が奏でていたこの唄を、思わず映像と音声に残してしまいました。いま期末考査に向かつて努力を重ねている皆さんには不謹慎ですが、その音と、映画「耳をすませば」とを重ね合わせています。

## 6月進研模試の結果が届きました

ハイスクールオンラインを通じて、既に目にしてる人もいると思います。  
2月に初受験したマーク模試とは違い、浪人生も含めた受験対応模試です。  
自信より、強いショックを受けて一気に目標変更しようとしている人、不安の解消をするために、「行こうなんて思ってもいなかった」専門学校

今回のマーク模試は中間考査から連続しての実施、かつ、運動部にとっては県総体が気になって、かつ、みんなと同じタイミングでの受験ではなく、二週間後の受験者も数多くいました。  
ということも考慮して、みんなには「まだ大丈夫」と言う言葉掛けをしないといけないのかもしれないが、いつまでも無責任に「大丈夫や」と言う言葉では済まされない時期に入ってきています。  
ここでは、数字からの客観的な事実を機械的に分析します。

### 6月マーク模試の結果では

・岡山大学を含めて、それ以上のレベルを掲げて紹介されている大学合格は、現実性がない

・それを受けて、国公立大学志望の人が兵庫県立大学に殺到する可能性が非常に高いが、各学科とも、推薦で各校に認められている受験者数の関係で学校内での潰し合いが起きる

・仮に学校の代表権を得ても、合格者は各校最大で1、ほぼ0が当たり前と思っている方が多い(何故なら兵庫県だけでも二百校近くの高校が存在する一方で、各学科の合格者数は何人と公表されていますか？近隣の府県の生徒にも受験機会もありますよね)

私たちは「まだ始まったばかり」と言うけれど、それを聞かされる皆さんは、現実として「反骨・挑戦」、「不安・妥協からの志望変更」のどちらに揺れますか？さて、夏休みを挟んでどんな表情を見せてくれるのか。

皆さんの人生は、駒田前校長曰く、「百年」でしたよね。その長い人生を満喫するために、「いま」何を闘うべきなのか。  
最初の一步で、心を砕いてしまいますか。自分の可能性をそんな風に過小評価をして、失わないことを祈るばかりです。  
夢って楽しいだけではありません。手にいれたから、楽しさが大きく心に残るのです。  
保護者の皆さんにもお願いです。次のような甘い囁きを口にすることを辛抱なさってください。  
「そんなに頑張らなくても良い」  
泣きながらも頑張れる「今」を大切にしてください。後押ししてあげてください。よろしくお祈りします。

# 大きな書店に 行きなさい

学校で与えられた教材以外に、受験生として自分の「一冊」を何か手元に持っていますか？

勿論、与えられた教材は、授業の準備、授業での確認、授業の振り返りと、三回は使いこなしているはずですが。その十分が積み重ねたものの「力試し」をする問題集と、大きな書店で出会ってください。

人に聞いた教材も良いですが、自分で手に取ると不思議と何かを感じます。その教材が「当たり」かは、それからの自分の「行動」が決めるものです。

文理問わず、英語の教材をまずは手にしましょう。相変わらず、「英単語」でとどまっていますか？

確認のテストの機会も、「もうその時期ではない」と任される中で、その単語を含んだ長文の読み取りの鍛錬が必要だと思います。英単語だけでなく、様々な社会情勢を知れば、英単語が不十分でも、長文の問題が解けてしまうこともよくあることです。是非、「読み取り」、「速読」の鍛錬をしてください。

国語であれば、特に今年「古文」と「現代」の狭間を行き交う人間模様とともに、古典知識を身につけることができる、「教材」と言うよりも「読書」、上手くいけば受験勉強の「息抜き」として「紫式部や清少納言、日本史」に触れる読み物も多数あります。

毎週の古典単語テストを有効活用しながら、「内容読解」を深める力を、共通試験としては「裏切らない」古文や漢文の学習に努めて欲しいものです。

やっても、時間を掛けても、多くの人を「裏切る」数学も、一学期始業式から配布し始めたマーク演習プリントも、早や第五十回を越えました。中には、学習していない「統計」の問題も配付しましたが、得手不得手を上手に使って、時間に「追われる練習」を

こなしてもらいたい。この教科は「活かす」と考える以上に、活かすのは点数だけでなく受験する機会も与えられる科目であることを理解して、受験できる環境を得るために、「模試で練習をする」教科だとしてください。練習材料は用意します。使うことを考える気になった時から追いつく工夫もしています。

ただ、「声」のモスキート音ならぬ、「視覚」のモスキート眼（こんな言葉はありませんが）の抵抗は強いですが・・・。

いずれにせよ、このテスト期間や午前中授業の合間を縫って、姫路駅にある〇〇堂書店へ（某大津〇〇モールの〇〇屋書店は中学校までの教材分はあるのだが。それなら、赤穂の〇〇モールの中にある〇〇屋書店が良い）立ち寄って、自分の心の拠となる問題集に出会って頂きたいものです。

これは私の本音です。あなたたちのポテンシャルは、私が経験した学校の生徒と比較しても「表現力」や「題材の選び方」は、かなり高いレベルです。

これは何度か学年通信も含め、学年集会などでも紹介しました。

ただ、自分の「磨き方」は言葉を選ばずに言うのと、「下手くそ」です。強制的に「磨かれる」ことも、他校に比べると「多くはない」です。その責任の一端は、そう「仕向ける」ことができなかつた、「仕向けていなかった」、ともすれば「やる気を削いだ」私の責任であると思います。

それでも、道は半ばです。「抵抗」してみたいよね。「させられた」と思われてスタートしても、気付いたときに「自分のためには」という覚悟を持った主体的な取り組みの姿を、最後まで期待することも、私の責任かと。

# 今号の最後に

私は、共通一次試験一〇〇〇点満点最後の世代でした。あなた方は、共通テスト一〇〇〇点満点最初の世代です。

私自身は、6月模試は「ビギナーズラック」で、一次試験なんて「楽勝」と甘いスタートでした。お陰でやってもやっても、いや、やればやるほど、模試の結果は下がるばかり。一次試験の答えには「惜しい」はなく、「正解」であることの厳しさを、それからの半年間味わわれました。

結局最後は、「積み重ね」を信じて「惜しい」を正解に変えるために必要な「覚悟」（これは真似をしてほしくないですが、最後の二択で自分が正解と思うものは間違いだ！）を持って、一月の本試験に臨みました。

結果は、点数としては満足がいくものとなりましたが、決して爽快感など感じることはなく、ただ二次試験に向けて今度こそ、「分かつた」という力が発揮できる「積み重ね」を心がけました。

勝手に家庭の事情を鑑みて、私立大学を受験しない選択の中、「覚悟」を持って臨んだ二次（個別）試験から帰ってすぐ、「両親に土下座して「もう一年時間を与えてもらえないか？」と言ったことを、いまなお忘れることはできません。

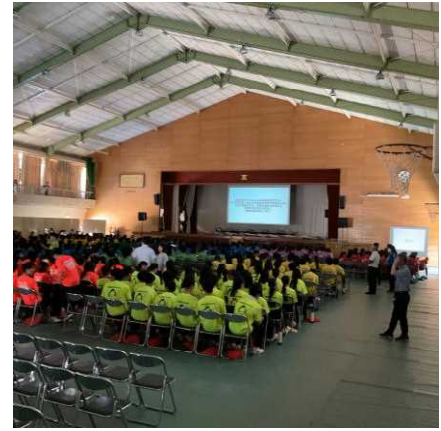
高校入試とは比べものにならない、人生の大きな挑戦です。「頑張っている」と言う言葉さえ忘れる「自分磨き」をとことんしてみませんか？

これからも、リリースは続けます。皆さん自身も皆さんに跳ね返る、今の「日々の努力」です。どうぞ、願わくは「妥協なき」、「今までとは違う」自分に出会い続ける日々にしてください。

振り返ったときに、「後悔」ではなくて「想い出」となっていることを、6月マーク模試（課題が山積みみの三学年第一回練習試合）に寄せたいと思います。

## （お願い）

卒業時に、学校に74回生としての記念品を贈呈するのですが、何か「心」にも、「形」にも残るような品のアイデアを頂けないでしょうか？



# 74回生 最後の文化祭

祭りの始まり



演劇部

～ 部活動 ～ バトン部

箏曲部



模擬店です

